



江戸・明治時代に触れた深川の一日 春のIメイト交流会

風薫る5月11日(日)、東京・深川の芭蕉記念館で開催。

留学生5名、会員・OBOG32名、会員のご友人など8名、総勢45名が参加しました。



〈かるた取り、いざ勝負〉

「百人一首」は留学生のみならず日本人でも難しいのですが、日

最初に「百人一首を楽しむ」というテーマで、会員の原谷洋美さんから「和歌」と「百人一首」について解説いただいた後、グループ対抗戦による「かるた遊び」を体験しました。

本の伝統文化を身近に感じる良い機会となりました。

お昼は深川名物の「あさりご飯」と端午の節句の「柏餅」を食べながら交流を深めました。その後、会員の金井優佳さんのミニライブで、「アジアの新しい風のテーマソング」などを披露いただき、最後に全員で「世界にひとつだけの花」を合唱し、「音楽には言葉や文化の異なる国同士の人々を結ぶ力がある」と改めて実感しました。午後は、明治時代の代表的な日本庭園である「清澄庭園」を散策し、最後に江戸時代末期の街並みを実物大で再現した「深川江戸資料館」を見学して、楽しい1日を終えました。

(理事 三木 京子)

盛り上がったかるた大会

春のアジ風交流会は、心温まる素敵なひとときでした。

Iメイトパートナーの林孝男さんと直接お会いできて嬉しかったです。参加者のみなさんも親切で、和やかな雰囲気の中リラックスして過ごせました。初体験のかるたゲームは盛り上がり、笑顔が絶えませんでした。お昼にいただいた深川飯のお弁当も美味しく会話も弾んで充実した時間となりました。貴重な経験をありがとうございました。



(貿易大学2年生 関西大学留学中 ゲエン・タン・タオ
Iメイトは林 孝男さん)

初めまして、よろしく！

今年2月に「アジ風」に入会しました右柳好博(うりゅう よしひろ)です。春のIメイト交流会に出席し、初めて皆さまと交流することができました。



日本に興味をもっておられるアジアの学生たちがこのような交流会を通じてより一層親しんでおられる様子を拝見し、「アジ風」の素晴らしさを感じた次第です。私自身、何かお役に立てるよう少しずつ活動していきたいと思います。

(正会員 右柳 好博)

春のIメイト交流会に参加して良かった

久しぶりに参加しましたが、やはりアジ風の交流会は心のリフレッシュになります。恩師の娘さんや初めて会ったご夫婦とお友達になれて素敵な新たな出会いになりました。久しぶりにお目にかかる方々の元気な姿を見られたことも嬉しい限りです。



日本に慣れていろいろ忘れてしまったが、今回の交流会を通して様々な日本の素晴らしい文化に改めて感動し「私は日本文化が好きだった」と思い出しました。気持ちがリフレッシュされて頑張ろうと思えるようになりました。

(賛助会員 仲村クスマー)

2025年度の出前講座 3月22日、5月25日

2025年度の出前講座は、3月の清華大学向けと5月にタマサート大学・貿易大学・パジャジャラン大学の3校向けの就活セミナーを実施しました。



「就活セミナー」3月22日

清華大学向けはパネルディスカッション形式でアジ風OBOGで会員の難波美慧さん、汪永香さん、王鶴さん、郝文艶さんと日本人会員の大石純さんの5名が下記の内容で話し合った。タイトルは「あなたの日本企業のイメージは間違っていないか」。

1. 日本企業の新卒採用の特徴とスケジュール
2. 日本での就職における言語・文化の壁と対策
3. 日本での就労におけるキャリアパスと生活の満足度

日本での就職は、安定した雇用環境や充実した社会保障制度などのメリットがある一方で、言語・文化の壁や昇進の遅さなどの課題も存在する。

座談会を通じて、参加者は日本での就職に関する理解を深め、自身のキャリアプランを検討する上で役立つ情報を得ることができたと思う。

(理事 奥山 寿子)

「日本で働く」5月25日

貿易大学、タマサート大学、パジャジャラン大学の3校合計で28人と、オブザーバーとして先生、日本人会員が参加。

前半は10年後の自分をイメージして、その中で「日本で働く」ことについて一緒に考えました。日本の「シューカツ(就活)」の特徴を、クイズを交えながら紹介、その後同じ学校同士で自由に話し、それぞれのキャリア観を共有しました。後半は現在日本で働く貿易大学OBのド・ティ・トアンさん、ディン・ティ・ホアン・アインさんとの座談会を行い、身近な先輩のリアルなお話にみなさん興味津々、日本で働くイメージができたのではないかと思います。



学生の皆さんの感想をご紹介：「私は本気で日本で働き、暮らしてみたいと思っています。日本の空気感や風景が大好きで、卒業したらぜひ日本での就職にチャレンジしたいです。(貿易大)」、「私は以前、日本での働く環境は厳しくて自由のきかない職場だと持っていたのですが、セミナーの後でその印象が変わりました。(貿易大4年)」、「私のグループでの一番の話は「10年後何になりたい」の質問で、色々な職業の話になりました。通訳者、社長、それとツアーガイドもありました！(パジャジャラン大3年)」。また皆さんとキャリアについてお話しできることを楽しみにしています！

(正会員 中本 寧)

7年振りに日本人16名による貿易大学訪問が実現しました。

初日は女性博物館を見学後、大学で授業参観、尺八演奏、書道や百人一首かるた体験、合唱やベトナム伝統舞踊を通して交流を深め、大盛会となりました。



〈私を書きました。上手でしょう〉

翌日は学生の案内による旧市街観光と日本語ビジネスコンテスト見学を楽しみ、学生の高い日本語力と社会課題への広い視野に感心しました。1メイトの親愛と熱意に触れアジ風や日越交流発展を実感しています。

(コーディネータ 小林 玲子)

初めての日本語ビジネスコンテスト

BizContest は、日本語学部を中心とするハノイ貿易大学 (FTU) と日本貿易振興機構 (JETRO) ハノイ事務所の共催で行われており、在ベトナム日本国大使館および国際交流基金ハノイ日本文化交流センターの後援を受けています。本コンテストは、ベトナムで初めて開催された、全て日本語で行われるビジネス・プラン・コンテストであり、次世代の学生たちが革新的かつ持続可能な社会的価値を創出するためのアイデアを見出し、育てていく場です。また、学生たちの問題解決力、創造的思考力、プレゼンテーション能力、そして特に日本語をプロフェッショナルな環境で使いこなす力の育成を目的としています。



本コンテストの開催に当たり多くの団体、企業からご協力頂いておりますが、NPO 法人「アジアの新しい風」様にはシルバースポンサーとしてご協賛いただき、決勝には約16名の会員の皆様にもご来場・応援を賜りました。主催者を代表して、心より御礼申し上げますとともに、今後も皆様の変わらぬご支援とご協力を賜れますよう、お願い申し上げます。

(日本語学部長 チャン・ティ・トゥ・トゥーイ)

学生時代最高の2日間

7年ぶりにベトナムを訪れてくださり、しかも私がコーディネータを務めた年だったなんて、本当に忘れられない思い出です。優しいお言葉と温かい励ましのおかげで、学生時代で最高な2日間になりました。心のこもった素敵なお土産は、今でも眺めるたびに「きれい！」と感動しています。皆様の若々しいエネルギー（特にカラオケの日！）にも驚かされました。次は日本でお会いできるよう、頑張っていきます！



(3年生 ウォン・バオ・チャウ Iメイトは今井 進さん)

交流会での尺八の生演奏とかかるた遊びは、私にとって初めての体験だったので、とても楽しみにしていました。「すごい！」「楽しい！」と何度も感じながら、貴重な時間を過ごしました。一緒に食事をしたりバスに乗ったりする中で、将来のことや日本とベトナムの関係について話が弾み、楽しいひとときとなりました。アジ風の皆さんからは、日本文化だけでなく、生活の面でもさまざまなことを学びました。私の学生生活がさらに充実したものになったと思っています。

(4年生 グエン・リン・ホア Iメイトは鹿島 万季代さん)

学生達の意識の高さと純粋さに感動

今回のツアーで印象に残っているのは「ビジネスコンテスト」での熱気あふれる雰囲気と参加した学生の熱い思いでした。

日本語学習者たちが「日本企業との連携によるベトナムの社会課題解決」をテーマに、ベトナム各地の大学から最終選考に残った8チームの発表テーマには、どれもサステナブルな要素が含まれ、環境問題など現在抱えているベトナムの課題に向き合う真摯な姿が見られ、学生達の意識の高さを感じました。

各応援団の快活で一生懸命な姿が微笑ましく学生達の純粋さに感動した一日でした。

(正会員 山田 琴恵)



サイゴンからハノイへ鉄道の旅

ハノイ貿易大学との交流会に先立ち、1,700kmのベトナム統一鉄道の2泊3日33時間（サイゴン発13日20時30分⇒ハノイ到着15日6時）の列車旅行を楽しんだ。事前に日本で二段ベッド定員4人の寝台車を予約した。ハノイ近郊の町に帰るおばさんと同室。サイゴン駅構内は犬がのんびりと散歩〈会場で演奏中〉していた。寝台車は、エアコン付き、揺れも少なく、いつの間にか走り出し、静かに止まるという快適なもの。この列車のハイライトは、ダナンを発しフエに至るハイヴァン峠越え。時速20kmくらいでくねくねと海岸に沿った山道を必死で走り続ける。指さして買った車内販売の弁当を食べながら、のんびりと過ごせた。機会があれば、皆さんにも乗車をお勧めしたい。



(正会員 安川 一)

事務局トピックス

- ◆ 新入会員増加キャンペーン「仲間を増やそう」：11名入会。
- ◆ YouTubeに「アジアの新しい風」を登録。テーマソングと共に活動を紹介。詳細は右記の林孝男さんの記事を参照してください。
- ◆ 4月5日、架け橋グループの留学生と日本人会員の花見。恩田川の満開の桜と串カツランチに笑顔が溢れていました。
- ◆ 6月14日、鎌倉アルプス（天園コース）を縦走。留学生、OBOG、日本人会員と友人の計18名が参加。
- ◆ 6月22日、架け橋グループオンライン交流会。学生の日本の生活への質問や心配に会員が答え、さらに来日への熱い想いを語ってくれました。
- ◆ 第七回奨学生を募集は、今年は応募者がありませんでした。引き続き来春の大学院入学者を対象に募集をつづけます。

アジアの新しい風テーマソングについて！

この度、我がテーマソングを会員皆さんに周知していただくこと並びに新会員募集キャンペーンとして、全世界のYouTube及びJoysound使用のカラオケ店、スナック・バー等の店で、会員の金井優佳さん歌唱曲とカラオケ曲の2曲が聴けるように新規設定致しました。誰でもパソコン・スマホでYouTubeをクリックして検索欄に「アジアの新しい風」と入力すると直ぐに出てきます。また、カラオケ店やスナックではカラオケ端末機器で「アジアの新しい風」と入力すると歌唱曲とカラオケ曲の2曲が選出されますので是非じっくり聞いていただきたいです。



〈YouTubeより〉

(正会員 林 孝男)

パジャジャラン大学 4月19日

日本人会員15名と学生13名、サムスル先生の29名が参加し、先ず学生集会の様子（Iメイト交流の状況）を聞きました。次に、学生からイスラムの「ラマダン」の紹介とそれを受けて、会員の斎藤さんに「日本の伝統行事（正月・節句等）における食べ物」の紹介をしてもらい、小グループに分かれての交流を行いました。（コーディネータ 鈴木 一美）

ラマダンとレバラン



ラマダンはイスラム暦「ヒジュラ」の第9の月です。多くの人が日の出から日没まで断食し、悪口や怒りも慎みます。夜にはタラウィー礼拝や夜明け前のサフル、断食明けの買い物など独特の習慣があります。

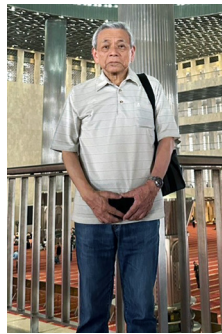
ラマダン後の祝日がレバラン（イードル・フィトリ）で、シャウワル月の1日に祝われます。朝に礼拝し、家族と集まり謝罪し合い、オポールアヤムやレンダン、クトゥパなどを食べます。ナスターやカステンゲルなどのクッキーも人気で、子供にはご褒美としてお金（THR）が贈られます。

（学生コーディネータ 2年生 エオネリス アリエスタ ハリム
ニックネーム：タタ Iメイトは桑江 勝巳さん）

蘇った古い記憶

交流会では、学生さんからラマダン（断食月）の趣旨や過ごし方、また断食明けのレバラン（イスラム教徒のお正月）でのイベントや伝統的な食事などについて興味深い説明を頂いたのですが、お話を聞くうちに、30年以上も前の古い記憶が蘇りました。

それはジャカルタ駐在時のこと。ここでも日本のお正月と同様に、レバランを家族で祝うため、地方出身者は一斉に帰省しますが、当時、私の单身生活を支えてくれたドライバー君やメイドさんたちも例外ではなく、レバラン休みの1週間、私はホテルでひとりだけの軟禁生活を余儀なくされたことがありました。今思えば、笑い話のような懐かしい思い出のひとつです。



〈イスティクラル
モスク内で〉

（正会員 斎藤 利治）

タマサート大学 4月27日

シリワン先生と学生11名、会員17名の合計29名が参加しました。簡単な自己紹介に始まり、学生のプレゼンテーションのあと5組に分かれて話し合いを実施しました。各グループとも大変盛り上がったようで親睦を深められました。

（コーディネータ 富平 茂）

タイ文化の紹介はタイ人の私にも新鮮

交流会は、動画でタイ文化を紹介するという私にとって二度目の機会でした。動画のテーマについては、3つのグループで1月に話し合って決めておいたので、それぞれ異なる内容となりました。中でも、タイあるある？やタイのかわいい動物、タイの伝統的な遊びなど、日本人会員にとって新鮮だと思われる点を取り上げた動画もあり、見どころが多かったと思います。実は、タイ人である私も知らなかった情報もあり、参加することでとても勉強になりました。



また、動画紹介の後の会話では、やはり地震についても話題となりました。皆さんが心配してくださったことに、私たちは本当に感動しました。交流会はとても有意義な時間だったと感じています。次の交流会も楽しみにしております。

（タマサート大学2年生 タワン・クラントーン
Iメイトは矢野 恒子さん）

タイと日本のあるある？

自己紹介の後、グループに分かれて学生さんたちが作ったタイの文化を紹介する動画を見ながら、意見交換をしました。

我々のグループでは特にタイのあるある？について話題が集中。「ご飯、食べた？」というお決まりの挨拶はタイの温かみのある文化を象徴しているようで、ひいては日本のおもてなし文化にも通ずる部分がある気がしました。また、学生さんは寮の前の屋台で朝晩の食事を済ませることが多いとの話から屋台文化の話題になり、気軽にしゃべりしながら食事をする習慣は西日本の屋台文化とも共通しており、互いの習慣、文化を確認し合う貴重な時間となりました。



（正会員 千歩 和人）

会員紹介

矢野 恒子さん

河合楽器製作所海外事業部にお勤めだった矢野さんは同じ課でテーブルを並べていた素敵な男性と恋に落ち、寿退社されました。ご主人はその後1989年から2000年までシンガポール駐在されることになり同行されました。

学生時代からワンダーフォーゲル部で山登りやスキーを楽しみ、外国での生活にも積極的に立ち向かわれました。折角シンガポールに来たのだからと、英語、中国語、マレー語を学ぼうと語学学校に通い始め、そこで巡り合ったのが現在アジ風副理事長の奥山寿子さんでした。

お二人はそれからお互いに離れられないお付き合いを続けて行くことになったのです。矢野さんはシンガポール南洋理工大学で日本語教師をされていたが、ベテラン日本語教師の奥山さんも勧誘して共に教師を続けることになりました。

実は奇遇ですが筆者も1973年から1975年の間南洋大学中国

語企業派遣留学生で、その間星日文化協会（Singapore Japan Cultural Society）で日本語の教師をしていました。

矢野さんはその後独立してご主人と共にYano Language Schoolを立ち上げ、帰国する迄5年間経営を続けられ、2005年に神戸に帰国されてからは英語教室を立ち上げ今も続けておられます。

奥山さんは2003年7月のアジ風設立以来ずっと中心的立場に居られ、日本に帰った矢野さんは早速勧誘され入会されました。多忙のため一旦退会されましたが、奥山さんから「戻って来て」と再び誘われ、今は改めて活動が続けておられます。

身体の不調があり、あまり遠くに出かけることはできませんが、オンライン交流はお得意で、アジ風の活動にも参加されています。最近ではアニメのアフレコ大会が素晴らしかったとの感想を頂きました。

インタビュアー：園田 成和





『日本語トーク』に参加して

昨年 12 月 8 日、ベトナムで開催された『日本語トーク』というスピーチコンテストに参加しました。予定されていた先輩が参加できなくなり、私が代わりにタイを代表して参加することになりました。コンテストには、東南アジア 7 か国（カンボジア、インドネシア、タイ、ラオス、フィリピン、マレーシア、シンガポール）と、ベトナムの北部・中部・南部から選抜された 14 名の代表者が参加しました。

私の発表テーマは「若者とスマホ」についてで、ベトナム人とタイ人のスマホ利用率を調査して比較しました。初めて外国の方と協力しながら準備を進めたので難しい部分もありましたが、素晴らしい経験になりました。自分の考えを伝えたり、意見を組み合わせたりしながら、さまざまなことを学びました。



最初は不安と緊張でいっぱいでした。しかし、このスピーチ大会は競技というよりも、他の参加者と交流し、楽しむ場としての雰囲気がありました。みんなで観光地を巡ったり、ゲームをしたりしているうちに、自然と緊張がほぐれていきました。他の参加者たちも同じように日本が好きで、言語や文化を通してつながりたいという思いを持っていることが伝わってきて、とても嬉しかったです。

日本語でスピーチができたことが本当に嬉しかったです。私は

他の参加者ほど日本語が上手ではないし、経験もあまりないので、最初から優勝を目指していたわけではありません。ただ、この大会を通して新しい経験を積みたいという思いだけでした。入賞は逃しましたが、他国の参加者とながれたことが一番の思い出になりました。

共通言語が英語ではなく日本語だったにもかかわらず、スムーズに会話を進めることができ、勉強方法や文化の違いについてたくさん話し合いました。日本語を勉強していて本当に良かったと心から思います。

この経験を通じて、タイと日本だけでなく、様々な国の架け橋になりたいという思いが強まりました。これからも努力を続け、日本語学習をさらに頑張っていきたいと思います。

(タマサート大学 1 年生 ピチャーモン・スワットウィリヤポン
ニックネーム: ミュウ)



〈右から 6 人目が筆者〉

「日本語トーク」への参加は I メイトのミュウさんにとって日本語修練の場だけではなく、さまざまな体験と出会いを得た貴重な機会だったと思います。8 月から 2 年生、そして N 1 へのチャレンジ。がんばってください!

(正会員 古畑 仁一)

メールと LINE の使い分け

昨秋からジャンさんとのメール交換を始めました。ジャンさんはとても熱心で、私がメールを送ると、2、3 日後に返信メールが届き、修正の必要がないほどでした。ところが、3 月初め頃から返事が滞り、やがて午前は大学で授業、午後はインターンとして働き、夜も中国語の勉強で時間がなかったとの返事が届きました。

そこで、以前から日本語の会話が苦手と言っていたので、LINE で 2 週間に 1 度、30 分の対話を提案しました。最初は沈黙の時間が長かったのですが、一橋大学に 4 か月の留学経験のある友人のゴックさんが加わってから、とてもこの三角関係は滑らかに、しっかりと機能するようになり、今では毎週 1 時間以上も、3 人でまるで友達同士で話しているような会話を楽しんでいます。

(正会員 浅山 久美子)

浅山さんから、LINE で定期的に日本語の会話練習をしてみてもどうかという提案をきっかけに、私たちは LINE を通じてやり取りをするようになりました。それ以来、以前よりもずっと気軽に話せるようになり、距離がぐっと縮まったように感じています。

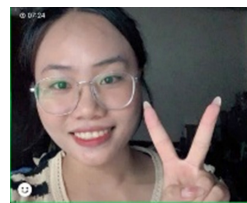
LINE はちょっとしたことをすぐに伝えられるのがとても便利

で、日常の何気ない出来事や小さな発見を気軽に共有することで、お互いのことをより深く理解できます。スタンプや短いメッセージで気持ちを伝えることもできて、やり取りがより親しみやすくなるのも魅力の一つです。毎週のおしゃべりが習慣になり、今ではその時間が楽しみになっています。

もちろん、メールにも良さがあり、丁寧に説明したいときや、フォーマルな内容を伝えるときにはメールの方が適していますし、文章をきちんと考えて書く分、日本語の表現を学ぶ良い練習にもなっています。

私たちは、普段は LINE で気軽に連絡を取りながら、必要に応じてメールを使うという形で、自然なつながりを保ちつつ、必要な情報もきちんと共有しています。それぞれ異なる良さがあるので、場面や目的に応じて使い分けられることが、より良いコミュニケーションにつながると思います。

(ハノイ貿易大学 3 年生 グエン・ミン・ジャン)



上・ジャンさん
下ゴックさんと浅山

I メイト便りを幅広い交流欄にしました。原稿をお待ちしています。

今後の行事予定

<http://www.npo-asia.org>
new-wind2006@npo-asia.org

7 月 21 日 (月祝日) 14:00~16:00

I メイト交流交歓会

(日本人会員の交流会) オンライン

9 月 21 日 (日曜日)

総会および講演会

講師 上野千鶴子氏 (予定)

場所 JICA 地球広場 (予定)



・・・編集後記・・・

2 年前になりますが、アジ風 20 周年記念の山中湖でのグランピングに参加しました。歌や踊りで楽しみながら、若い人の将来に向けた悩みやアジ風の活動について心置き無く話し合い、中身の濃い集いでした。

アジ風の 20 年にわたる発展の一方で、アジア・世界の平和への歩みはより厳しくなっていると思われます。従ってアジ風の活動も従来にも増した活動に取り組んで行く事が求められるものと思いました。日本語を学ぶ大学生との楽しい交流での草の根活動が基本ですが、私に出来る事を考えると、交流を掘りさらに深めて行く位しか無いな?・・・。

私に残された時間をアジ風新聞編集委員に入れて頂きました。

(山田 稔)